

北村山地区の県立高校再編整備計画

平成22年1月
山形県教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	現状と課題	2
	(1) 現状		
	① 中学校卒業者の動向		
	② 設置学科及び入学定員		
	③ 志願状況		
	(2) 課題		
	① 少子化への対応		
	② 社会の変化と地域の活性化への対応		
	③ 生徒の多様化と進路意識の変化への対応		
	④ 少子化に対応した専門高校（学科）の適正配置		
3	高校設置計画	7
	(1) 3校設置の考え方		
	(2) 村山産業高校（仮称）		
	① 設置場所		
	② 入学定員		
	③ 通学区域		
	④ 学校の特徴		
	(3) 東根中高一貫教育校（仮称）		
	① 設置場所		
	② 入学定員		
	③ 通学区域		
	④ 学校の特徴		
	(4) 北村山高校		
	① 入学定員		
	② 通学区域		
	③ 学校の特徴		
	(5) 再編整備の手順		

1 はじめに

平成 17 年 3 月に策定した「県立高校教育改革実施計画」において、平成 20 年度以降の検討課題としていた北村山地区の県立高校の再編整備については、平成 19 年 1 月に外部有識者や地域の教育・産業等関係者による「北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」を設置し検討に着手した。

検討委員会は、新しい時代を切り拓く「北村山地区の高校教育の在り方」について、「どのような人材の育成が望ましいか」、「どのような教育内容や活動が望ましいか」、「どのような高校の配置が望ましいか」の 3 つを主な視点として検討を重ね、「高校教育に関する意識調査」や「地域関係者からの意見聴取」、地域説明会での意見などを踏まえながら、平成 20 年 2 月に「報告書」をとりまとめた。

県教育委員会では、この報告書の考えを基本に据えながら検討を進め、平成 21 年 6 月に出された「山形県産業教育審議会答申」、さらには同月策定された「山形県中高一貫教育設置構想」を踏まえ、具体的な設置計画について検討を進めてきた。

計画策定に当たっては、地域・時代のニーズに応じ、将来を見通した北村山地区の教育環境の整備を目指し、検討委員会から示された 3 校配置を基本に、「地域の産業と関連した人材の育成を担う学校」「進学指導を充実させた学校」「多様な学びを通して自分を見つめ進路実現を図る学校」の具体化を図る観点から検討を進めた。

また、「山形県産業教育審議会答申」における、産業教育の充実・改善を図るための専門高校（学科）の適正配置の方針を踏まえ、複合型専門高校及び総合学科の系列における専門教育の充実を図った。

さらに、「山形県中高一貫教育校設置構想」を基本として策定された「山形県中高一貫教育校設置計画」を踏まえ普通科教育の充実を図った。

2 現状と課題

(1) 現状

① 中学校卒業者の動向

平成21年3月における北村山地区の中学校卒業生数は993名で、そのうち約4割の393名が北村山地区の4つの県立高校へ入学しており、約5割の492名（公立高校301名、私立高校191名）が東南村山地区の高校へ入学している。

一方、他地区から北村山地区の4つの高校へ入学した生徒は200名となっている。

② 設置学科及び入学定員

北村山地区の県立高校の入学定員は、全体で680名（17学級）であり、設置学科及び入学定員は以下のようになっている。

- ・ 村山農業高校 農業科 120名
農産システム科（40名）園芸サイエンス科（40名）
環境クリエイト科（40名）
- ・ 楯岡高校 普通科 200名
- ・ 東根工業高校 工業科 120名 家庭科 40名
機械システム科（40名）
総合技術科（40名）[自動車専攻20名デザイン専攻20名]
電子システム科（40名）
生活クリエイト科（40名）
- ・ 北村山高校 総合学科 200名

③ 志願状況

- 村山農業高校農業科は、全体として定員を下回る状況が続いており、特に園芸サイエンス科は4年連続して定員を下回っている。
- 楯岡高校普通科は、定員をほぼ上回る志願状況にあり、北村山地区全域の他、天童市等東南村山地区からの入学者が多い。
- 東根工業高校工業科は、志願状況の変動が大きく、平成19年度より、定員を下回る学科が出ている。また、家庭科は、3年連続して定員を下回っている。
- 北村山高校は、平成19年度に普通科及び情報ビジネス科を総合学科に改編したものの、平成21年度まで、3年連続して定員を下回っている。

<北村山地区 4 高校の志願状況>

学校名	学科		H17	H18	H19	H20	H21	
村山 農業	農業	農産システム	1.23	0.65	1.10	0.75	1.30	
		園芸サイエンス	1.03	0.80	0.78	0.60	0.60	
		環境クリエイト	0.80	1.10	1.50	0.75	0.83	
楯岡	普通		1.23	1.06	1.08	0.97	1.02	
東根 工業	工業	機械システム	1.33	1.08	1.35	1.08	0.95	
		総合技術 H18～	自動車専攻		1.10	0.80	1.20	0.90
			デザイン専攻		1.40	0.75	1.20	1.25
	電子システム H18～		1.18	1.30	0.80	1.05		
	家庭	生活クリエイト	1.13	1.30	0.80	0.90	0.70	
北村山	総合	H19～			0.87	0.91	0.72	

※東根工業高校総合技術科は平成 18 年設置、北村山高校総合学科は平成 19 年設置

(2) 課題

①少子化への対応

平成 16 年に 1,235 名であった北村山地区の中学校卒業生数は、平成 26 年には 854 名になると見込まれ、10 年間で 381 名減少し、さらにその後も減少が続くと予想されている。

「県立高校教育改革実施計画」においては、平成 26 年の中学校卒業予定者数を基本に、公立高校と私立高校の進学者の割合を考慮し、東南村山地区など他地区への進学など、高校進学の実態も加味して、北村山地区の 4 高校で 19 学級あった入学定員を平成 26 年度までに 14 学級程度にする必要があるとした。

②社会の変化と地域の活性化への対応

検討委員会では北村山地区の高校教育のあるべき姿を、第 5 次山形県教育振興計画の目標を踏まえ、地域で求められる人材像を明確にしながらか検討がなされた。

その中で人材の育成については、社会の変化と地域の活性化へ対応できる、「知徳体のバランスのとれた人材」、「地域の発展を担う人材」、「高い志を持って自己実現を図る人材」の育成を求めている。

一方、平成 18 年 3 月に策定された「山形県農林水産業振興計画」及び「やまがた産業振興プラン」においては、農業、工業、商業の連携による事業の成長や新たな価値の創出を本県の産業振興の基本政策としており、高校教育においても社会の変化と地域の活性化へ対応できる人材育成の視点として踏まえる必要がある。

③生徒の多様化と進路意識の変化への対応

検討委員会では、生徒の多様化と進路意識の変化へ対応するため「多様な進学希望を実現させる教育」が望まれるとされた。特に、普通科教育では、いわゆる難関大学と呼ばれる上級学校にも合格できるような進学指導の充実とともに、受験に対応した学力のみを身に付けさせることにとどまらず、積極的に課題を追求して解決する態度を養うことが必要としている。

北村山地区の中学 3 年生を対象に実施した「高校教育に関する意識調査（平成 19 年 7 月）」では、約 44%が大学・短大等への進学を

希望しているが、北村山地区の 4 高校の大学・短大等への進学率は約 33%（平成 21 年 3 月）にとどまっている。

一方、北村山地区から東南村山地区の公立高校へ入学した生徒の約半分が、山形市内の進学型の普通科高校に進学しており（平成 21 年 4 月）、北村山地区における普通科教育の一層の充実と、生徒の進路希望の実現への対応が求められている。

④少子化に対応した専門高校（学科）の適正配置

「県産業教育審議会答申」では、少子高齢化等が進展する社会において、産業構造の変化や時代のニーズに適切に対応するため、高校における産業教育が果たすべき役割の重要性は一層高まっているとした上で、生徒数の減少や厳しい財政状況の中で、産業教育に関する学習環境の整備には多くの課題を抱えているが、本県の産業を担う人材を育成するため、職業に関する専門高校（学科）の充実・改善を図らなければならないとした。

このことから、変動する労働市場や多様化する産業社会、時代と地域のニーズを踏まえた「単科型専門高校※1」「複合型専門高校※2」

「総合学科高校※3」を適切に配置し、産業教育を学ぶ場をしっかりと保障する必要があるという基本方針を示した。

さらに、学科ごとの配置についても、農業科は「複合型専門高校の配置※4」、工業科は「単科型専門高校と複合型専門高校の配置※5」、商業科は「単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置※6」、家庭科は「複合型専門高校と総合学科高校の配置※7」を基本とした検討が必要であるとした。

「県産業教育審議会答申」より

※1 「単科型専門高校」

単一の大学科で、専門の基盤となる複数の小学科(専門学科)から構成され、一定規模の学級数を有する専門高校

例：山形工業高校[工業科]（機械システム科）（電子システム科）（情報システム科）（建築システム科）（環境システム科）

※2 「複合型専門高校」

複数の大学科を併置し、地域産業の特色や産業の動向等を踏まえ、特色ある専門分野の小学科を有する専門高校

例：新庄神室産業高校[農業科]（生物生産科）（生物環境科）

[工業科] (機械システム科) (電気システム科) (環境デザイン科)

※3 「総合学科高校」

専門の特性に応じた系列を準備し、幅広く専門の基礎的な学びができる場を提供

例：天童高校[総合学科] (会計ビジネス系列) (情報ビジネス系列) (保健福祉系列)

※4 【農業に関する学科の在り方】

学科の設置にあたっては、「農業県やまがた」を担う人材を育成することの重要性に鑑み、専門学科に必要な学習環境を確保するとともに、総合産業としての農業の在り方を踏まえて、複合型専門高校の配置を軸に検討する。

複合型専門高校には、他の大学科と併置し、地域の農業の特色やニーズを踏まえた1から3の小学科を設置する。複合型専門高校の配置にあたっては、地理的な立地条件等を踏まえ検討する必要がある。

※5 【工業に関する学科の在り方】

学科の設置にあたっては、本県のものづくり産業の現状を踏まえ、全県的なバランスを考慮し、単科型専門高校と複合型専門高校の配置を検討する。

単科型専門高校は、基盤となる専門分野の学習を提供する専門高校で、現在、6分野の学科を持っている工業高校とする。一部小学科については、地域の複数の工業高校の機能を集積することも検討する。

複合型専門高校には、他の大学科と併置し、地域のものづくり産業の特色やニーズを踏まえた1から3の小学科を設置する。

※6 【商業に関する学科の在り方】

学科の設置にあたっては、多様化する産業社会や時代と地域のニーズを踏まえ、単科型専門高校、複合型専門高校、総合学科高校の配置を検討する。

単科型専門高校は、商業に関する多様な専門の学習を提供し、県都でもあり商業活動の中心を担っている山形市に1校配置する。

複合型専門高校には、他の大学科と併置し、経済のグローバル化や地域産業のニーズを踏まえた1から3の小学科を設置する。

総合学科高校には、全県的な配置バランスを考慮し、商業に関する専門系列を置く。

※7 【家庭に関する学科の在り方】

学科の設置にあたっては、時代のニーズや生活関連サービス産業の動向を踏まえ、複合型専門高校と総合学科高校の配置を検討する。

複合型専門高校は、活力ある教育活動の展開や、より広い視野を持った人材を育成する視点から、他の大学科と併置し、県内に1校配置する。

総合学科高校には、全県的な配置バランスを考慮し、家庭科に関する専門系列を置く。

3 高校設置計画

(1) 3校設置の考え方

少子化が進行する中で、第5次山形県教育振興計画に示された適正な学校規模（1学年当たり4～8学級）を確保しながら、魅力ある学校づくりを進める観点から、検討委員会の報告書に示された3校案を基本とし、「地域の産業と関連した人材の育成を担う学校」「進学指導を充実させた学校」「多様な学びを通して自分を見つめ進路実現を図る学校」の具体化を図った。

○ 地域の産業と関連した人材の育成を担う学校

「山形県産業教育審議会答申」における、産業教育の充実・改善を図るための専門高校（学科）の適正配置の方針及び各専門学科の在り方を踏まえ、本地域においては、複合型専門高校を設置することとし、広大な実習農地の確保が必要な農業高校の移転は困難なことから、村山産業高校（仮称）は現在の村山農業高校の敷地に設置することとし産業教育の充実を図ることとする。

産業の総合化に対応した人材を育成するため、1つの学校で生産、加工、流通を学ぶことができる新しいタイプの産業高校として、地域の産業を支える教育を充実させる。

○ 進学指導を充実させた学校

山形県中高一貫教育校設置計画に基づき、併設型中高一貫教育校を東根工業高校の敷地に設置することとし進学指導の充実を図ることとする。

新たに中高一貫教育を導入することにより、6年間の計画的・継続的な教育活動を効果的に展開し、地域のニーズに対応した進学指導を充実させるとともに、幅広い年齢集団による活動を通し豊かな人間性を育成する。

○ 多様な学びを通して自分を見つめ進路実現を図る学校

総合学科設置3年目の北村山高校において、キャリア教育及び系列における専門教育を充実させ、生徒の多様な進路希望の実現を図る教育の充実を図ることとする。

総合学科設置後の成果と課題を、生徒の実態や保護者、地域の要望を踏まえながらまとめるとともに、系列の見直しを含めた教育課程の改善を図る。

この3つの高校を適切に配置し、地域の高校教育へのニーズに、地域の中でできる限り応えることにより、生徒の地元定着と負担軽減を図ることとする。

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会報告（平成 20 年 2 月）

○望まれる人材、教育内容や活動、高校配置を提言→3校配置が基本

A校 地域産業の人材育成を担う学校

B校 多様な学びで進路実現を図る学校

C校 進学指導を充実させた学校

県産業教育審議会答申（平成 21 年 6 月）

○人材育成、地域産業との連携、産業教育と専門高校（学科）の適正配置を答申

複合型専門高校
複数の大学科を併置

総合学科高校
系列における専門教育

村山農業高校
(農業科 3)

東根工業高校
(工業科 3・家庭科 1)

北村山高校
(総合学科 5)

山形県中高一貫設置構想(平成 21 年 6 月)

併設型中高一貫教育校を設置

- 交通の利便性がよい場所
- 将来にわたり生徒の確保が見込まれる場所

東根市が適地

楯岡高校
(普通科 5)

中高一貫教育校設置計画（内陸）

A校

村山産業高校（仮称）

農業と工業を柱に、開発・生産・加工・流通を学ぶことができる「産業高校」

B校

北村山高校

キャリア教育を軸とした「総合学科高校」

C校

東根新高校（仮称）（中高一貫）

探究心の育成に取り組み、上級学校への進学指導を一層充実させる「普通科高校」

(2) 村山産業高校（仮称）

① 設置場所

現在の村山農業高校所在地に設置

② 入学定員

農業科 80名（2学級） 工業科 80名（2学級）

商業科 40名（1学級）

③ 通学区域

県内一円

④ 学校の特色

○ 県内初の農業科、工業科、商業科を併置した複合型の産業高校

（専門性の基礎・基本を重視）

将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を重視し、専門分野に関する知識と技術の定着を図る。

具体的には、専門の教科・科目と実習の内容を関連づけ、到達目標を示したシラバスを用いたガイダンス等により、生徒に「専門の基礎・基本の知識・技術」を明確にさせた上で学習目標を持たせ、少人数指導など生徒の実態に即したきめ細やかな指導により、確かな技術・技能を身に付けさせる。

（創造力・実践力の育成）

地域産業を担う人材の育成を重視する観点から、商品開発に関する実習、地域活性化の企画構想に関する実習等において、地域資源の再発見等を通し付加価値を生み出すことができる創造性豊かな人材を育成する。

また、実践的な力を育成するため、例えば、地元企業との連携による「生徒の企業実習」や「長期インターンシップ」等の新たな体験的学習の充実を図る。

○ 生産、加工、流通を総合的に学ぶことができる高校

(総合選択制の採用)

自分の専門分野で身に付けた知識・技能を活用して課題を解決できる人材を育成するため、総合選択制の教育課程を編成し、「課題研究」や実習等で他学科と連携した取組みを推進し、産業の総合化に対応した人材を育成する。

体験的学習を通じた課題意識に裏打ちされた他学科の学習への興味関心や、より高度な技能習得への意欲等に応え、上級学校への進学希望にも対応できるよう教育課程編成を工夫する。

○ 地域や産業界等と連携して将来のスペシャリストを育成する高校

(専門家との交流ネットワークを構築)

技術の高度化や経済のグローバル化に対応した人材育成が求められていることから、県内外で活躍している経営者や研究者等との相互交流ネットワークを構築し、学校外の高度な知識・技術やグローバルな実践活動に触れさせ、生徒の知的好奇心を喚起し、自らの夢や希望を育み、その実現に向け努力する人材を育成する。

(産・学・官による連携体制)

学校と地域産業界・関係機関が、将来の職業人を協働で育てる体制を構築し、生徒の専門的職業への志を高め、地域や産業界のニーズに対応した地域産業の振興に貢献できる人材を育成する。

(3) 東根中高一貫校（仮称）

① 設置場所

現在の東根工業高校所在地に設置

② 入学定員

高校 普通科 200名（5学級）

中学校 2～3学級

③ 通学区域

県内一円

④ 学校の特徴

○ 6年間の継続的な教育活動を展開する県内初の併設型中高一貫教育校

（6年間を見通した教育課程を編成）

「教育課程の基準の特例※1」の活用や単位制による生徒の進路希望に対応する選択科目の開設、習熟度別学習等を実施し、6年間を通じて学習効果をより確かなものにする教育課程を編成する。

また、中高一貫教育の安定した教育環境の下で、専門性の高い教科・科目の設定や指導方法の工夫、体験学習の実施等、特色ある教育活動を幅広く展開する。

※1 「教育課程の基準の特例」の主な内容

ア 中学校と高校との教育内容の一部を相互に入れ替えが可能

イ 中学校の教育内容の一部を高校へ移行することが可能

ウ 高校の教育内容の一部を中学校へ移行することが可能

○ 子どもたちが描く将来の希望と6年間の学びとが直結する学校

（将来を主体的に切り拓く力の育成）

職業観・勤労観を養い、働くことへの意欲や態度、進路を選択していく力を育成する。

また、6年間の学習活動や豊かな体験の中で、知識や技能の習得とともに「知る」楽しさ、「わかる」喜び、「知識を活用する」面白さを実感させ、子どもたち一人ひとりが目標を

設定し実現できる、確かな「学力」の育成を図る。

(きめ細かい指導を実現する少人数教育)

生徒を把握し、実態に即した柔軟な指導を実践するために、少人数教育を導入する。

教師と生徒のふれあいが一層密になり、基礎・基本の上に、適性や興味・関心、進路希望などに応じて、生徒一人ひとりが持つ可能性を伸長する。

(外国語教育や理数教育を充実)

外国語教育を充実させ、書く力や話す力、及び実践的なコミュニケーション能力を育成する。

また、理数教育を充実させ、洞察力や論理的思考力、創造力を養う。

○ 専門性の深化・高度化を図る探究的な学習活動を実現する学校

(課題解決型学習の充実)

自ら設定した課題について調査・研究し、結果を整理・発表する学習を充実させ、「受けとる力、考える力、判断する力、表現する力」など、課題の発見・設定と解決に取り組む力を養う。

(大学・研究機関との連携)

新たな教育課程や指導方法については、県教育センターや山形大学・教職大学院、その他の研究機関等と連携し、中学校教員と高校教員が共同で研究・開発・実践を進め、その成果を県内各中学校・高校に発信していく。

○ 豊かな体験活動等を通して、個性や創造性を伸ばすことができる学校

(幅広い年齢集団による活動)

中学生と高校生の合同の学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア等、幅広い年齢集団による活動を通じて、互いに援助・協力する中で、豊かな人間性を育成する。

(4) 北村山高校

① 入学定員

総合学科 160名（4学級）

② 通学区域

県内一円

③ 学校の特徴

○ 普通科や専門学科の枠を越えた新しいスタイルの総合学科 高校

（生活産業の発展、情報化社会に対応する学習）

従前の系列を再編成し、衣食住、保育、介護などに関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けることができる系列を設置する。

また、全ての系列で、コンピュータなどを効果的に活用する能力を養い、情報を表現、伝達する力や、ビジネスの諸活動における情報活用能力を育成する。

（多様で弾力的な授業形態）

基礎・基本の学習内容を定着させ、表現力、コミュニケーション能力の育成を図るため、少人数授業やグループ学習など多様で弾力的な授業形態を工夫し、それぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

○ 多様な進路希望や興味・関心に応じて、幅広い科目から選 択して学習できる高校

（生徒の幅広い進路希望に対応）

北村山高校で学ぶ生徒の進路希望は、大学、短期大学、専門学校への進学、公務員、民間企業就職等、多様であり、そうした進路希望に対応した幅広い科目を開設する。

また、「産業社会と人間」の授業を通して生徒が進路に対する自覚を深める動機付けになるよう、その内容を充実させ、生徒の科目選択に対する助言や進学希望者・就職希望者の双方を視野に入れたガイダンス機能の充実を図る。

○ 人・地域・世界・自然とかかわる総合コミュニケーション能力を育成する高校

(総合コミュニケーション能力の育成)

「総合コミュニケーション能力」の育成を重視した教育課程を編成する。

具体的には、情報機器を活用し情報を発信する「情報コミュニケーション能力」や外国事情を理解し外国語を運用する「国際コミュニケーション能力」、課題を解決できる能力としての「応用コミュニケーション能力」を育成する科目を開設する。

また、地域貢献活動を柱とした体験活動やコミュニケーションスキルを向上させる学習を通し、総合コミュニケーション能力の基盤となる、あいさつ、礼儀、おもいやり、対話力などの「基礎的コミュニケーション能力」の育成を図る。

(5) 再編整備の手順

村山産業高校（仮称）、東根中高一貫校（仮称）の開校に向けて、教育目標や内容等に関する教育基本計画を策定する委員会をそれぞれ設置する。

その後、それぞれ策定された教育基本計画を踏まえ、校舎の設計・建設や教育課程の編成等、開校に向けた準備作業を進める。※1

また、北村山高校については、村山産業高校（仮称）の開校に合わせて系列を見直し、衣食住、保育、介護に関する学習の充実等、魅力ある教育課程の改善を図る。

※1



